

会議録

会議の名称	第39回藤井寺市子ども・子育て会議
開催日時	令和8年3月25日(水) 10時00分～11時10分
開催場所	藤井寺市役所本庁3階 会議室305
出席者	<p><委員> 輿石 由美子(会長)、小磯 久美子(副会長)、岡本 祐典、 塩田 利果、爲貞 修子、中辻 智子、守田 直美、原田 せつ子</p> <p><事務局> こども未来部長、子育て支援課</p> <p><関係課> こども施設課、こども育成課</p>
欠席者	仲井 茂騎、春名 絵美
会議の議題	(1) 乳児等通園支援事業について (2) 特定教育・保育施設の利用定員について (3) 認可外保育施設等の確認について (4) その他
会議資料	<input type="radio"/> 次第 <input type="radio"/> 藤井寺市子ども・子育て会議委員名簿 <input type="radio"/> (資料1) 乳児等通園支援事業について <input type="radio"/> (資料2-1) 特定教育・保育施設の利用定員の確認について <input type="radio"/> (資料2-2) 特定教育・保育施設の利用定員の変更について <input type="radio"/> (資料3) 認可外保育施設等の確認について(報告)
会議の成立	成立
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の必要事項	—

1. 開会

(興石会長)

○挨拶

2. 委員紹介等

(事務局)

○新任委員紹介

○会議成立の報告

3. 議題

(1) 乳児等通園支援事業について

(興石会長)

議題(1)について、担当課より説明をお願いします。

(こども育成課)

○資料1に沿って説明

(興石会長)

只今説明のあった内容について、皆様からご意見ご質問等があればお願いします。

(岡本委員)

藤井寺カトリック幼稚園の利用定員は、0歳児と1歳児は0人、2歳児は3人と記載されているが、0歳児・1歳児の受入れはできないという認識か。

(こども育成課)

お見込みのとおりである。

幼稚園型認定こども園ということもあり、0歳児、1歳児は受入れず、2歳児限定ということになる。

(岡本委員)

それ以外の施設については、定員の範囲内の人数であれば、年齢区分は問わず受入れが可能であるという認識で良いか。

(こども育成課)

お見込みのとおりである、

(興石会長)

受入れ体制も踏まえれば、各施設とも苦肉の策で何とか取り組もうとしていただけているのではないか。

(中辻委員)

この事業の開始に伴って保育士の配置がどのように変わったのか。また、この事業を利用するお子さんはどういう部屋で過ごすことになるのか。

(こども育成課)

保育士の配置については、通常の保育施設として配置される保育士とは別に、本事業専任として、利用定員3名の施設には必ず1名の保育士が配置される。また、定員9名の施設には、さらにもう1人専任で配置する必要がある。

いずれの施設も兼任として別の保育士がサポートに入る予定とされており、通常の保育の体制に影響が出ることのない。

次に居室についてであるが、第1保育所は現在一時預かり事業を実施している居室で実施予定である。ななこども園、藤井寺カトリック幼稚園についても、本事業専用の居室ではない。道明寺どろんこ保育園については、本事業用の居室が別に設けられている。

(塩田委員)

今回4施設で事業を実施することになった経過を伺いたい。また、本事業を利用するお子さんがどのようなカリキュラムをこなすことになるのかも併せて伺いたい。

(こども育成課)

市内の就学前施設すべてに声を掛けさせていただいたところ、実施が困難であるという施設が多くあった中、この4施設は実施していただけることとなった。運営法人の方針として、積極的に実施したいと申し出ていただけたところもあれば、協議を重ねて実施を決断いただいた施設もある。それぞれの施設においては、実施場所や人の確保といった課題はあるが、前向きに取り組んでいただいた。

次に、利用するお子さんの過ごし方について、施設によって多少変わるが、2時間半～4時間程度の利用となる。基本的には、本事業のお子さんだけが過ごすことは想定されておらず、可能な範囲で保育施設に在籍する児童と一緒に過ごすようである。また、食事を提供される施設もあるので、保育施設と完全に分かれて運営される状況ではないものと認識している。

(塩田委員)

承知した。道明寺どろんこ保育園については、今回新たに開園する施設で、なおかつ本事業として9人を受入れていただけたということで、市としてしっかりフォローしていただくようよろしくお願いいたします。

(こども施設課)

第1保育所での実施体制について、少し補足させていただく。

職員体制は、会計年度任用職員ではあるものの、2名専任で対応させていただくとともに、事務の関係においては、管理職を増員して配置する予定である。また、9時30分～正午の2時間半で受入れる準備を進めている。

(輿石会長)

今回、ななこども園でも本事業を実施されるということで、何かご苦労などがあればご披露願いたい。

(守田委員)

当園での子育て支援事業としては、未就園児とベビーを対象に園庭開放などを実施しており、今年度からは給食体験や離乳食体験も開始した。

食事に関して色々悩んでおられたり、自宅でひとりで子どもと向き合っている保護者の方の気持ちが少しでも楽になるようにという思いと、保育士とお子さんとの関わり方を見ていただくことで、家庭での子育てに何かヒントになるのではないかという思いもあって、地域支援の一環として本事業を実施することとした。

職員の配置や場所の確保など負担は増えることになるが、藤井寺市にお住まいのお子さんがいるご家庭に少しでも力になればという思いである。

ただ、今まで集団保育を経験していないお子さんの対応となるので、職員と相談しながら対処方法を考えつつ、手探りの状態ではあるが、まずはやってみたいと考えている。またお力をお貸しいただけたらと思うので、よろしく願いしたい。

(興石会長)

この新しい子育て支援の形が、子どもにとってはどうなのか、知らない人ばかりの中でどう過ごすのか。しかし、子どもや保護者の成長を考えれば、人との関わりは大事であり、その第一歩として、各施設が受入れてくれるというのは大変有り難いことだと思う。

定期的にご利用され、保護者の方とも話を重ねることによって、そのお子さんやご家庭のことが良くわかるようになるが、利用の少ないお子さんや保護者に対しては、関わり方が難しいと思う。そのような事業に施設として取り組もうと欲していただけのこと、本当に貴重なことである。今回事業実施に手を挙げていただいた施設には、大変感謝しているし、まずは多くの方に利用していただくことが大事だと思う。

また、市としては、本事業のための研修の実施や事業の様子の見学など、専門的なアドバイスができる体制をとることが大事だと考えており、そのための研修制度等を充実していただきたいと考えているが如何か。

(こども育成課)

研修については、本事業に従事する保育士向けのカリキュラムが国から配布される予定になっているが、現在具体的なものはまだ出ていない。発出された場合はすぐに共有し、施設には極力負担がかからないように配慮したいと考えている。

(こども施設課)

本事業だけではなく、こども施設課の中に幼児教育保育室という体制があり、公立・民間含めて研修に取り組んでいるため、その辺りの内容について説明させていただく。

(こども施設課幼児教育保育室)

当室では、市内の保育士や幼稚園教諭等に対する研修を担当している。従来は幼稚園・保育所でそれぞれに講師を招いて研修会を行っていたが、今年度からは幼稚園・保育所の各研修を融合させ、保育研修会として8回実施した。

担当者が参加しやすい水曜日の午睡時間に講師を招き、食育、愛着の問題、保幼小接続、体育遊び、絵画制作など多岐にわたるテーマで実施した。公立施設からは保育士、看護師、調理師など延べ342名に参加いただくとともに、民間施設にも呼び掛けて延べ49名に参加いただいた。

研修の中では、幼保の融合、園運営について、園内研修についてなど、グループ討議を通じて交流を図るとともに、市全体の保育の資質向上のため、その手法は違えども基本となる部分や大事な部分について共通理解できるよう取り組んでいるところである。

(興石会長)

研修制度のことをお伺いしたが、実際取り組んでみて、利用される方の声と実施する施設の声をきっちりと聞き取って、課題は何か、良いところは何かということ进行分析しながら、より良い制度に育てていくことが大事だと思う。

(中辻委員)

資料1について、修正後の代用計画の102人について、再度説明願いたい。

(こども育成課)

当初は、1施設につき3人を月曜日～金曜日の5日間、4施設で受入れていただくことを想定していたため、確保方策を60人としていた。

その後の調整の結果、土曜日も受入れてくださったり、受入れ人数を増やしていただける施設が出てきたため、確保方策が102人となったものである。

(中辻委員)

1週間当たりの人数ということで理解した。

(輿石会長)

今後、事業が進んでいく中で色々と課題が出てくると思うので、今後の会議において、状況等を報告いただけると有り難い。

(小磯副会長)

高槻市で実際に本事業を実施されている施設の園長の話进行機会があった。

保護者にとっても、お子さんにとっても非常に良い事業ではあるが、バックアップしていくことが非常に大事であると思う。施設独自の教育方針、利用されるご家庭の背景などを踏まえたバックアップが必要だということを感じている。

ただ、実施してみなければ分からないことも多く、先生方にとっては非常に負担感が大きかったようである。

やはり、良い事業であるということを感じて取り組んでいくことに尽きるのではないか。その取組を市として実施するにあたって、これだけの施設に手を挙げていただけていることに、良い町であると感じたところである。

(2) 特定教育・保育施設の利用定員について

(輿石会長)

議題(2)について、担当課より説明をお願いします。

(こども育成課)

○資料2に沿って説明

(中辻委員)

道明寺どろんこ保育園について、現時点で何人入所される予定か年齢順に教えていただきたい。

(こども育成課)

現在、0歳児6名、1歳児16名、2歳児18名。3歳児以上が定員割れしており、3歳児15名、4歳児10名、5歳児3名となっている。

(輿石会長)

4歳・5歳までには既に別の園に通われており、一般的に新設園では4歳児・5歳児が少ない傾向にある。

(塩田委員)

最近の母親は4歳まで自宅で養育することが難しく、2歳くらいから保育所等に預けて仕事に復帰されるという状況がスタンダードになっており、どうしても幼稚園を希望されるご家庭が少なくなる。今回藤井寺カトリック幼稚園で2歳児を受入れていただけることは有り難いことだと感じた。

保育園と幼稚園とで免許が異なると思うが、保育士免許をお持ちの方が2歳児を保育されるという理解で良いか。

(こども育成課)

お見込みのとおりである。

藤井寺カトリック幼稚園では、既に認可外保育施設として2歳児のお子さんを受入れておられるが、今後は、認定こども園の3号認定、一時預かり事業、乳児等通園支援事業という形で2歳児のお子さんを受入れられることとなる。

(塩田委員)

小さいうちから入園でき、そのまま慣れ親しんだ園で進級できることは好ましい。引き続きよろしくお願ひしたい。

(輿石会長)

満3歳児入園が可能になり、特に民間幼稚園では小さい子どもたちも受入れるようになった。ただ、公立園では、満3歳児、3歳児の受入れ体制が取れていないところが多く、給食の実施も難しいという状況である。その点、民間園の動きは早く、残念ながら公立幼稚園が少なくなっているというのが現実である。

(小磯副会長)

非常に難しい制度であると感じている。大枠として国が考えていることは、子どもが少ないということで、少ない子どもたちをどのようにして大事に育てていくかについて、本当に模索している。

また、子どもがたくさん増えて欲しいというのが一番で、保護者が子育てしやすい環境を何とか作り出そうとして様々な策が積み上げられた結果、現在の状況に至っているため、複雑に感じるのではないかと思う。

藤井寺市も色々と模索されていると思うが、加えて、公立施設は民間施設を圧迫してはいけないという大前提があり、公立施設にばかり子どもが通うことになり、民間施設が運営できなくなってしまえば本末転倒になるため、その辺りの兼ね合いも難しいと思う。

(塩田委員)

保護者としては、まずは就学前施設に入れるかが大きな問題であり、その結果を早く知りたい、そして、できる限り近隣の施設に任せたいといった思いはあるが、市としても色々と考えてくださっていることに感謝している。

(小磯副会長)

藤井寺市として、お子さんを受入れられる枠を確保する方向に動いていただいていることに感謝する。また、保育士養成に携わっている中で、学生にも藤井寺市は子どもたちが集う市にしようということで頑張っておられることを伝えている。ぜひ藤井寺市に多くの子どもが来てほしいと願っている。

(輿石会長)

資格について、今や短大卒の2年間で保育者養成は難しいのではないか、小学校教員免許とも一緒に取れるようなくらいでないといけないのではないか、といった声もある。

確かに知識は必要かもしれないが、子どもたちと過ごすことの楽しさ、子どもたちが大きくなっていくことを見守る喜びなどを感じられる保育者を養成しなければいけないと思う反面、我々の思いとは違う方向に進んでしまいやすい状況でもある。

子どもたちが小さい頃にどのような人間と接したらいいのかということを経験しながら考えていかなければならないと思う。もちろん集団生活も大事だが、個人としての経験も大事である。最近色々難しいことが多いが、とはいえ、子どもたちは現に存在するし、子どもを育てる保護者もいらっしやる。そこにお力添えできるよう、養成校や地域住民など、皆が応援していることが伝わるような場所・人の確保が必要ではないか。

お子さんを預けられるにあたって、その施設が望ましいかどうか保護者の方々は厳しい目でご覧になると思うので、各施設においては、環境や施設の様子を常に見られているということをしかりと意識し、その環境を整えていくことが必要である。市におかれても、しかりと目を光らせていただきたいと思うのでよろしく願います。

(塩田委員)

藤井寺市の子どもたちをどう増やしていくかを考えたときに、家を建てるタイミングは子どもが生まれたときが多い。また、どこに家を建てるかと考えたときには、就学前施設や小学校といった周辺環境はもちろん、その施設の利用定員やどのような園なのか、といった周りの声なども重要である。

藤井寺市の人口を増やすのは、就学前施設を運営している皆さんのお力次第だと思っているので、よろしく願いたい。

(3) 認可外保育施設等の確認について

(輿石会長)

議題(3)について、担当課より説明をお願いします。

(こども育成課)

○資料3に沿って説明

(輿石会長)

レインボーローズインターナショナルスクール藤井寺野中校について、インターナショナルスクールに入れたいという親御さんが多そうな感じもするが、開園に当たってどの程度の利用が見込まれているのか。

(こども育成課)

認可外施設ということもあり、申込状況など詳細は伺っていない。

(輿石会長)

1歳から受入れするという事は、施設面、人員体制からも、なかなか大変なことだとは思ふ。

また、道明寺どろんこ保育園では、新設園ながら、一時預かり事業、病児保育事業も実施されるということで、随分幅広く取り組まれる。関東の方での経験を踏まえてのことであろうが、保護者の方たちにとっては有り難い施設だと思う。

その施設が子どもたちのことを考えて運営されているかどうかという確認だけは、市としてきちんとしていただきたいというのが一番である。

(小磯副会長)

藤井寺市では外国にルーツのある方が増えている状況か。

(こども育成課)

詳細の数字は手元にないが、昔に比べると増加している状況である。

(小磯副会長)

外国にルーツのあるご家庭は、幼い子と両親との会話にも困難なことが多いが、インターナショナルスクールが保育施設として開設されるということにはとても意義があると思っている。認可外保育施設ということで、市にとって目が行き届きにくい点はあるかと思うが、無償化対象として市との繋がりもできると思うので、より良い施設になっていただけよう今後に期待したい。

(輿石会長)

子育て支援にも様々な形があり、それが子どもや保護者のためになっているのかということについて、常に声を聞き、考えていく必要がある。

委員各位におかれては、議題に関する内容について、ご意見を色々ご発言いただきたいし、多くの方に知っていただきたい内容があれば、ぜひ周りの方にその内容を伝えていただきたいと思う。引き続きよろしく願います。

(4) その他

(輿石会長)

市から連絡事項等はあるか。

(事務局)

○次回会議の開催予定について

(こども施設課)

○次回会議の議題について説明

(輿石会長)

その他、委員各位から何かご意見等はあるか。

(原田委員)

道明寺どろんこ保育園は地元地域にあり、これまで色々と情報を目にしていた中、良いタイミングで会議に参加させていただけることになった。引き続きよろしく願います。

(爲貞委員)

母子寡婦福祉会については、小学生～中学・高校生の世帯の会員が多かったが、近年は未就学児や父子世帯の会員も増えてきた。本日の会議に参加し、会員からも色々な声を聞いていきたいと改めて感じた。

(輿石会長)

以上で本日の議題はすべて終了した。進行を事務局にお返すする。

4. 閉会

(事務局)

貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

本日いただいたご意見を踏まえて、実際の保育の様子も確認し、よりよい運営に繋げていきたいと考えているので、引き続き委員各位のご協力をよろしく願いたい。

以上で第39回藤井寺市子ども・子育て会議を閉会する。

以上